

標 題 : Spanish Mediterranean diet and other dietary patterns and breast cancer risk: case-control EpiGEICAM study
スペインの地中海食事および他の食事パターンと乳がんリスク :
症例-対照の EpiGEICAM 研究

著 者 : A Castelló, et al. (スペイン カルロスIII世健康研究所
国立疫学センター がん疫学部)

掲 載 誌 : Br J Cancer. 2014 Sep 23; 111(7): 1454-62.

要 旨 :

背 景 : アルコール摂取の有害な影響に関する確かな調査結果があるにもかかわらず、乳がん(BC)リスクに対する他の食事要因の影響に関して存在する証拠は決定的でない。

スペインの女性を閉経状態および腫瘍サブタイプで階層化し、代替健康食指数(AHEI)および代替地中海食事スコア (aMED との関連の結果と比較して、食事パターンと乳がんのリスクとの間の関連を評価することを、この研究は目的とした。

方 法 : 1017 件の乳がん症例および 1017 件の乳がん病歴が無く同様な年齢(± 5 歳)の健康な対照を募集した。

前および後の食事パターンと、乳がん全般および閉経状態および固有の腫瘍サブタイプ(ER+/PR+ and HER2+; HER2+; and ER-/PR- and HER2-)との間の関連を、多項ロジスティック回帰モデルを使用して評価した。

結 果 : 西洋食事パターンの順守は、乳がんの高いリスクと関連し(4 区分の最高対最低のオッズ比(OR) 1.46(95% CI 1.06-2.01)、特に閉経前では高かった (OR=1.75 ; 95% CI 1.14-2.67)。

それにひきかえ、地中海食事パターンは低いリスクと関連した(4 区分の最高対最低の OR 0.56(95% CI 0.40-0.79)。

西洋食事パターンの有害な影響は全ての腫瘍サブタイプで同様に観察されたけれど、我々の地中海食事パターンの予防効果はトリプルネガティブ乳がん で最も強かった(OR=0.32; 95%CI 0.15-0.66 そして不均一性=0.04)。

賢明な食事(Prudent diet)パターンの順守と乳がんリスクとの間に関連は見られなかった。

前の(a priori)指数と乳がんリスクとの間の関連は目立たなかった(4 区分の最高対最低の OR AHEI=0.69; 95% CI 0.51-0.94 そして aMED=0.74; 95% CI 0.46-1.18)。

結 論： 我々の結果は、乳がんリスクに対する西洋食事の有害な影響を確認し、そして全サブタイプの乳がんの予防、特にトリプルネガティブ腫瘍の予防に対する果物、野菜、豆類、脂っこい魚および植物油が豊富な食事の効能に関する新しい証拠を追加する。
